

巻頭言

理療教育の新たな飛躍に向けて

筑波大学理療科教員養成施設長
宮本俊和

本紀要は、本年度より国内最大級の医学文献情報データベースである「医学中央雑誌」の収載雑誌として登録されました。理療に関する教育・臨床・基礎研究などの幅広い投稿論文をお待ちしています。

先日、「視覚障害教育を語る懇談会」が東京都立文京盲学校で開かれましたが、一番の関心事は視覚障害者のキャリア教育でした。つまり、視覚障害者の職業自立として重要な理療教育の今後と理療科教員養成に期待が寄せられています。

本施設の入学志願者は、年々減少傾向にあります。この状況は、新たな対策を取らない限りますます進むことが見込まれます。本施設の志願者の減少と盲学校理療科の生徒数の減少は、本施設の設立の使命と密接に関連するため、盲学校との連携を深めて、生徒数増加につながる方策を考え実行することが重要です。また本施設では、これからの社会に適応した理療科教員養成のためのカリキュラムの編成を始めているところです。

施設の入学志願者が減少する一方で、鍼灸治療を受ける人の増加が見込まれます。高齢化が進む現在、健康・スポーツ面の需要はますます高まるとともに、病状の進行抑制や介護予防面での医療政策に期待が寄せられています。本施設は、これらの市場で活躍できる鍼灸師と教員を輩出すべく、臨床教育と研究を進めて行くことが重要です。

鍼灸マッサージの市場を拡大するためには、国内外の人たちに鍼灸マッサージの啓発活動をする必要があります。長野冬季オリンピック・パラリンピックで盲学校の先生を中心にオフィシャルボランティアをしたように、東京2020年大会に向けた鍼灸マッサージのボランティアを考える必要があるかもしれません。

啓発活動と進行して、国民に鍼灸マッサージの効果を説明できる科学的根拠を示すことが重要です。本紀要が、そのためにお役に立てればと思っています。本紀要は、臨床研究、基礎研究、理療教育研究など幅広い分野で募集していますので、投稿をお待ちしております。

2018年3月1日